

(別添)

社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会西条病院  
公的医療機関等2025プラン

平成29年9月 策定

【社会福祉法人<sup>鳥取</sup>済生会西条病院の基本情報】

医療機関名：社会福祉法人<sup>鳥取</sup>済生会西条病院

開設主体：社会福祉法人<sup>鳥取</sup>済生会

所在地：愛媛県西条市朔日市269番地1

許可病床数：150床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）高度急性期、急性期、回復期

稼働病床数：150床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）高度急性期4床、急性期122床、回復期24床

診療科目：内科、外科、循環器内科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、放射線科、麻酔科、神経内科、血液内科、血管外科、ペインクリニック外科、病理診断科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、皮膚科

職員数：（平成29年9月1日現在）

- ・ 医師 29名
- ・ 看護職員 149名
- ・ 専門職 73名
- ・ 事務職員 56名

## 【1. 現状と課題】

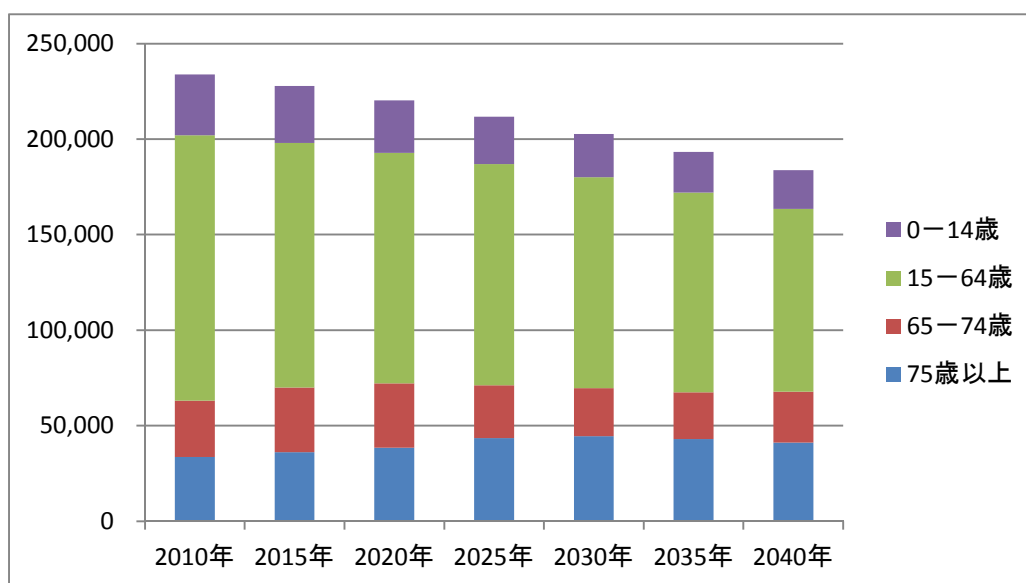
### ① 構想区域の現状

新居浜・西条医療圏では、人口の減少・高齢化が急速に進展している中、医師の減少・高齢化も顕著になっている。また、一部の診療科では、医師配置の重点化・集約化が図られ、小児科においては、救急医療の広域化が進んでいる。少子高齢化により労働人口が減少する中で、医師等の医療従事者についても、安定的に確保することが困難になっている。

2014年7月時点の病床機能報告では、2025年には高度急性期及び回復期の病床が不足する一方、急性期及び慢性期の病床は、既に必要病床数に達している。病床機能の偏りが生じており、特に高度急性期機能は構想区域内で完結できない状況にある。

新居浜・西条構想区域では、地域住民の誰もが適切な医療を受け、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続できるよう地域全体で治し支える「地域完結型医療」を目指している。また、安全・安心で質が高く効率的な医療提供体制を構築するとともに、地域包括ケアシステムを構築することにより、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進している。

### 【新居浜・西条構想区域人口（推計）】



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	233,826	227,783	220,332	211,721	202,607	193,222	183,676
0-14歳	31,853	29,809	27,482	24,864	22,635	21,200	20,285
15-64歳	138,915	127,990	120,625	115,703	110,397	104,575	95,653
65-74歳	29,512	33,938	33,682	27,631	25,043	24,469	26,551
75歳以上	33,547	36,046	38,543	43,523	44,532	42,978	41,187

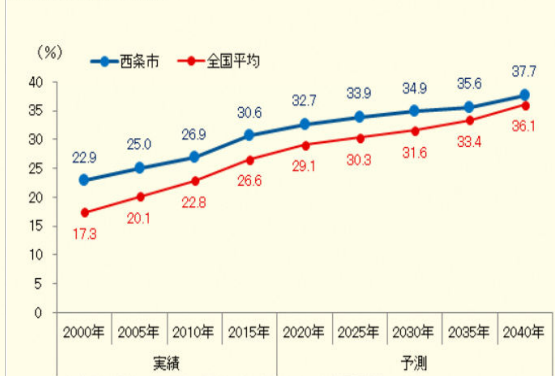
2010年の構想区域の人口は233,826人であったが、2025年には211,721人（▲22,105人、▲9.5%）、2040年には183,676人（▲50,150人、▲21.4%）になると推計されている。また、受療率が高く、一人当たりの医療費が高い75歳以上の後期高齢者は、2010年には33,547人（14.3%）であったが、2025年には43,523人（20.6%）に増加すると推計されている。

## 【新居浜・西条構想区域の高齢化率推移（推計）】

新居浜市の高齢化率の推移



西条市の高齢化率の推移



### （新居浜市）

新居浜市の2015年の総人口にしめる65歳以上の割合（高齢化率）は30.8%。すでに3割を超えており、全国平均（26.6%）よりも4.2ポイント高い。今後、高齢化率は2040年までに5.3ポイント上昇し、36.1%に達し、おおよそ10人に4人が高齢者になると見込まれる。

### （西条市）

2015年の総人口にしめる65歳以上の割合（高齢化率）は30.6%であり、すでに3割を超えており、全国平均（26.6%）よりも4.0ポイント高い状況にある。今後、高齢化率は2040年までに7.1ポイント上昇し、37.7%に達し、おおよそ10人に4人が高齢者になると見込まれる。

## 【新居浜・西条構想区域 医師等の人員数】

（単位：人）

	職員数	人口10万あたり職員数	
	新居浜・西条医療圏	新居浜・西条医療圏	全国平均
医師	449.00	196.86	245.93
歯科医師	151.00	66.21	81.62
薬剤師	200.00	87.69	101.87

（2016年10月現在の地域内医療機関情報の集計値（人口10万人あたりは、2015年国勢調査総人口で計算）

2016年10月末時点における構想区域の人口10万人当たり医療施設従事医師数は、196.86人であり、全国平均（245.93人）を下回っている。

## 【新居浜・西条構想区域必要病床数（推計）】

2014年7月1日現在(病床機能報告制度)		2025年必要数	
高度急性期	10床	高度急性期	196床
急性期	1,821床	急性期	826床
回復期	146床	回復期	677床
慢性期	947床	慢性期	648床
		在宅等	3,425人/日

【新居浜・西条医療構想区域の推計患者数】

(5疾病)

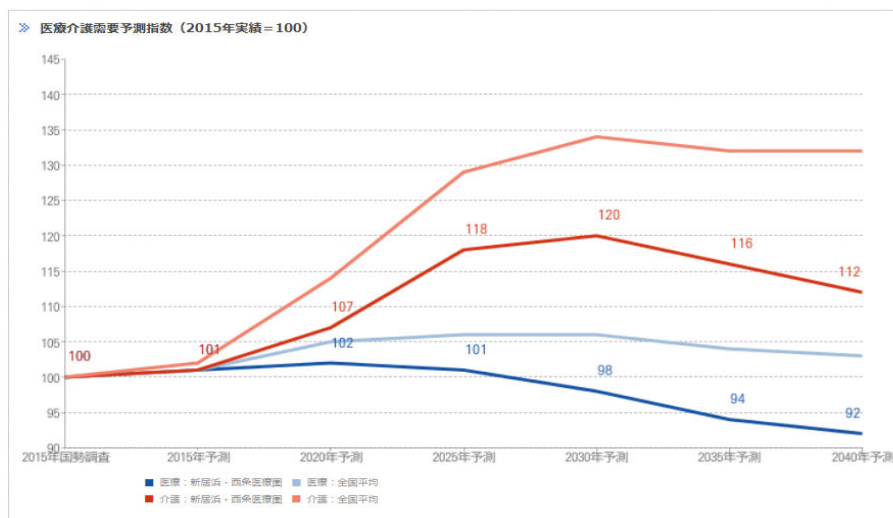
									全国	
	2011年		2025年		増減率(2011年比)				増減率(2011年比)	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
悪性新生物	281	334	298	343	6%	3%			18%	13%
虚血性心疾患	34	131	40	147	15%	12%			29%	26%
脳血管疾患	384	239	483	271	26%	14%			44%	28%
糖尿病	51	426	60	431	17%	1%			31%	12%
精神及び行動の障害	563	410	566	383	0%	-6%			10%	-2%

(ICD大分類)

									全国	
	2011年		2025年		増減率(2011年比)				増減率(2011年比)	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
総数(人)	2,835	14,278	3,246	14,010	15%	-2%			27%	5%
1 感染症及び寄生虫症	47	324	55	299	16%	-8%			28%	-3%
2 新生物	312	440	329	441	6%	0%			17%	10%
3 血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	14	42	16	40	16%	-4%			32%	1%
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	78	833	93	828	19%	-1%			35%	9%
5 精神及び行動の障害	563	410	566	383	0%	-6%			10%	-2%
6 神経系の疾患	245	305	288	326	18%	7%			32%	17%
7 眼及び付属器の疾患	25	590	27	606	8%	3%			20%	11%
8 耳及び乳様突起の疾患	5	226	5	212	-1%	-6%			9%	0%
9 循環器系の疾患	560	1,998	706	2,194	26%	10%			44%	23%
10 呼吸器系の疾患	201	1,336	256	1,156	28%	-13%			46%	-11%
11 消化器系の疾患	136	2,475	153	2,292	13%	-7%			26%	-1%
12 皮膚及び皮下組織の疾患	34	477	40	444	19%	-7%			33%	-3%
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	135	2,057	157	2,179	16%	6%			31%	17%
14 腎尿路生殖器系の疾患	102	519	120	507	18%	-2%			32%	5%
15 妊娠、分娩及び産じょく	29	23	22	17	-24%	-24%			-24%	-24%
16 周産期に発生した病態	12	5	9	4	-26%	-26%			-29%	-25%
17 先天奇形、変形及び染色体異常	10	21	8	18	-19%	-16%			-19%	-14%
18 症状、徴候及び異常臨床所見 異常検査所見で他に分類されないもの	41	163	50	158	22%	-3%			38%	4%
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	270	600	328	564	21%	-6%			37%	-1%
20 健康状態に影響を及ぼす要因及び 保健サービスの利用	15	1,436	16	1,342	2%	-7%			4%	-1%

当該医療圏の2011年から2025年にかけての入院患者数の増減率は15%(全国平均27%)で、全国平均よりも低い伸び率であり、外来患者数の増減率も-2%(全国 5%)で、全国平均よりも低い伸び率である。

## 【新居浜・西条医療構想区域の医療介護需要予想指数】



- 医療介護需要予測：各年の需要量を以下で計算し、2015年の国勢調査に基づく需要量=100として指数化
- ・ 各年の医療需要量 = 14歳×0.6 + 15～39歳×0.4 + 40～64歳×1.0 + 65～74歳×2.3 + 75歳～×3.9
- ・ 各年の介護需要量 = 40～64歳×1.0 + 65～74歳×9.7 + 75歳～×87.3
- ・ 表示が重なるためチャート上に数値を表示しておりませんが、全国平均値は以下のとおりです。

	2015年国勢	2015年予測	2020年予測	2025年予測	2030年予測	2035年予測	2040年予測
医療	100	101	105	106	106	104	103
介護	100	102	114	129	134	132	132

### ② 構想区域の課題

- ・ 地域包括ケアシステムや効果的・効率的で質の高い医療提供体制の整備には、質の高い人材を継続的に確保していくことが不可欠である。特に、医師不足の解消は喫緊の課題である。この課題を解決しなければ、現状の救急医療体制の維持も困難となり、地域医療が崩壊する恐れがある。若手医師の確保による増員や診療科間の偏在解消が急務である。
- ・ 他の医療従事者についても、地域医療に必要な職種及び人数を安定的に確保するとともに、地域定着を促進しなければならない。
- ・ 病床機能に偏りがあることから、不足する高度急性期及び回復期の病床機能については充実させる必要がある。特に、回復期病床の確保とリハビリテーション機能の強化を図る必要がある。
- ・ 急性期及び慢性期の病床、稼働していない病床については、不足する医療機能への転換を含めた対応を検討する必要がある。
- ・ 救急医療は、一次、二次、三次ともに充実強化を図る必要があり、特に三次救急を担う県立新居浜病院は整形外科の再開や医師の増員等、救命救急センターにふさわしい機能と体制を確保する必要がある。
- ・ 小児医療（救急を含む）や周産期医療の充実を図る必要がある。
- ・ 他の構想区域の医療機関への依存度が高いがん医療については、地域の医療提供体制の充実を図り、急性期及び回復期における地域完結を目指す必要がある。
- ・ 在宅医療等の提供体制が量的に不足しており、地域における施設や人的体制を整え、在宅復帰に向けた切れ目ない提供体制を確保する必要がある。
- ・ 糖尿病やがんなど医科と歯科の連携が必要な疾患が多数あることや、在宅療養者等に対する口腔健康管理のニーズも高まっていることから、一層の医科・歯科連携を図る必要がある。

### ③ 自施設の現状

・当院は、社会福祉法人恩賜財団済生会の病院として、済生会の理念である「施薬救療」をもとに、「生活困窮者を救う」「医療で地域の生を守る」「医療と福祉、会を挙げて切れ目のないサービスを提供」の三つの目標を達成すべく活動している。

#### 【当院の理念】

「私たちは済生会創立の「救療済生」の精神に基づき、地域の人々に質の高い、安全な、温かみのある保健・医療・福祉を提供し、地域社会に貢献します」

#### 【当院の基本方針】

1. 地域の公的中核病院として、最新の医療設備に裏づけされた質の高い安全な医療と心のこもったサービスを提供します。
2. 患者さんの人権を尊重し、情報を十分提供し、インフォームドコンセントに基づいた患者さん中心の医療を行います。
3. 救急医療の2次病院として、24時間体制で対応します。
4. 開放型病院として、地域の医療機関との相互協力を積極的に行い、地域の基幹病院としての役割を果たします。
5. 愛媛県以外の医療機関と協力して、臨床研修病院の役割を担います。
6. 地域の医療福祉活動(生活習慣病検診、済生丸による離島の巡回診療、減免診療、老人保健施設・介護支援センターの運営、訪問診察・訪問看護等居宅サービス事業、居宅介護支援事業、健康教育など)に努め、保健、医療、福祉を総合した診療体制を充実させます。
7. 患者さんの立場に立った、安全で良質な医療を提供するため、常に職員の研修・教育を行い、自己研鑽に努めます。
8. 職員が誇りを持って働ける、明るく楽しい職場づくりを目指します。
9. 職員全員がコスト意識を持ち、健全経営を行います。
10. 国際緊急援助隊への参加、中国の友好病院との交流など、国際的視野に立って活動します。

#### 【診療実績（平成28年度）】

入院基本料：一般病棟入院基本料7対1

特定入院料：ハイケアユニット入院医療管理料、回復期リハビリテーション病棟入院料

平均在院日数：15.6日

病床稼働率：80.9%（退院患者除く）

救急車受入件数：1,085件

手術件数：1,121件

#### 【職員数（平成29年9月1日現在）】

医師29名、看護師149名、専門職73名、事務職員56名

#### 【特徴】

公的医療機関、開放型病院、がん診療連携推進病院、二次救急医療機関、無料低額診療事業、離島健診実施、日本病院機能評価認定病院

#### 【関連施設】

老人保健施設いしづち苑  
在宅介護支援センターいしづち苑  
居宅介護支援事業所いしづち苑  
ホームヘルパーステーションいしづち苑  
西条特別養護老人ホーム  
西条訪問看護ステーション

#### 【政策医療（5疾患5事業）】

がんの医療体制  
愛媛県がん診療連携推進病院の指定  
手術、放射線療法、化学療法等を組み合わせた集学的治療、緩和ケアの提供  
脳卒中の医療体制  
HCUでの急性期治療体制の充実  
早期及び回復期リハビリテーションの実施  
心筋梗塞等の医療体制  
カテーテル治療等の急性期医療体制を整備  
糖尿病の医療体制  
生活習慣病重症化予防の取り組み  
救急医療体制  
二次救急医療機関としての病院輪番制への参加  
災害医療体制  
EMIS（広域災害・救急医療情報システム）への参加  
へき地医療  
済生丸による巡回診療事業

#### 自施設の課題

- ・二次医療機関として救急輪番制の一翼を担っているが、一部診療科においては医師不足が見られる。若手医師の確保による増員や診療科の偏在解消が急務であり、今後も関連大学及び県内済生会病院との連携を強化していくことが不可欠となっている。また、医師の業務負担の軽減など働きやすい環境を整えることや、研修医の受け入れ体制を充実させるなど、魅力ある病院づくりに取り組む。
- ・現在、7対1看護基準の取得により、手厚い看護サービスが提供できているが、将来の看護職員確保のために、看護実習の受け入れや奨学金貸付制度等の充実を図ることで、採用増に繋げる。また、離職防止のため、業務負担の軽減等を図るとともに、スキルアップの支援などの教育体制を構築する。
- ・公的病院であっても、良質な医療サービスを地域住民に提供し続けるためには、健全で安定した経営を行うことが必要不可欠である。地域において必要とされるサービスを把握するとともに、現状の人員、施設及び医療機器等を有効かつ効率的に運用していくことが求められる。また、各部署の目標値等を設定し、進捗管理及び結果分析を行い、健全経営化を図る。



【財政状況及び経営指標】

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
病床数	150	150	150	150
1日平均入院患者数(人) ※退院患者含む	145.1	135.7	131.1	129.2
病床利用率(%) ※退院患者含む	96.8	90.5	87.4	86.2
新入院患者数(人)	2,647	2,639	2,667	2,852
救急車受入患者数(人)	1,068	983	975	1,085
平均在院日数(日)	19.1	17.7	17.0	15.6
入院単価(円)	46,680	47,252	47,072	46,536
1日平均外来患者数(人)	392	387	377	380
外来単価(円)	21,302	22,597	25,169	23,385
手術件数(件)	1,144	1,111	1,084	1,121
紹介率(%)	28.7	29.8	31.8	34.0
逆紹介率(%)	18.0	18.4	15.1	16.5
人件費比率(%)	46.5	46.5	42.8	46.4
医薬品費比率(%)	24.6	26.3	28.9	28.1
診療材料費比率(%)	8.0	7.0	7.3	6.8
医業収支比率(%)	101.0	102.3	101.1	97.4
経常収支比率(%)	100.5	102.0	101.2	97.5
経常損益(百万円)	27	95	60	-124

【救急車応需率の推移】

	救急車依頼数	受入数	受入不能数	救急車応需率
2014年度	1,136	983	153	86.5%
2015年度	1,100	975	125	88.6%
2016年度	1,225	1,085	140	88.6%
2017年度※	603	548	55	90.9%

※2017年度は9月末日現在

平成28年度は、急性期病床（7対1看護体制）を維持するために、救急医療体制の充実に努めた。救急車受入数及び新入院患者数は大幅に増加したが、平均在院日数の短縮により病床利用率が低下したことや歯科口腔外科の開設に伴う大型の設備投資の影響から経営悪化を招いた。

平成29年度においては、各部署が経営基盤の強化に向けた目標を設定し、職員一丸となって「断らない救急医療」を目指した結果、9月現在の救急車応需率は90%を上回っている。また、歯科口腔外科医師3人体制による本格的な診療により新入院患者数が増加したことで病床の高稼働が続き、経営は改善に向かっている。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

【がんの医療体制】

- ・ 地域のがん医療の中心的役割を担うために、がんに対する専門的知識を有する医師や医療スタッフを育成する。また、専門的医療を提供するための施設整備を充実することにより、質の高いがん医療を提供する。

【救急医療体制】

- ・ 高度医療機器の整備・更新や医師等の人材を確保し、24時間体制での救急医療体制を維持していく。
- ・ かかりつけ医からの紹介患者の診療、病床及び医療機器の共同利用等を推し進める。
- ・ 地域連携交流会等の開催を継続し、救急隊や警察署、地域の病院・診療所と連携を密にし、「断らない救急医療」をめざす。

【災害医療体制】

- ・ 東日本大震災及び熊本地震を教訓とし、将来起こりうる東南海大地震発生時における傷病者収容施設として、消防署や他の済生会施設等と連携し、災害に強い病院となるよう定期訓練を実施していく。

【へき地医療】

- ・ 無医地区等の島嶼部住民を対象に済生丸による巡回診療事業を継続する。

【生活困窮者支援】

- ・ 生活保護受給者をはじめとして低所得者の医療費を免除または減額する「無料低額診療（無低）事業」を実施していく。
- ・ ホームレスや家庭内暴力（DV）被害者、刑務所出所者、障害者、高齢者、在留外国人等で、医療・福祉サービスにアクセスできない人たちを対象に健康相談等を実施していく。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 西条市で唯一の公的医療機関として、24時間体制で救急医療に対応している。特に外科、整形外科、歯科口腔外科においては西条市内で唯一緊急手術が施行できる病院であることから、平成29年8月実績の病床利用率は一般病床（7対1）95.9%、回復期リハビリ病床91.4%と高稼働率を維持し、病床の確保に苦慮している状況である。今後はクリニカルパス等の入院計画の充実を図り、病床確保に努める。

③ その他見直すべき点

- 臨床研修病院の指定に向けて、院内体制を構築していく。
  - ・ 基幹型臨床研修病院（医科）平成29年10月31日届出予定
  - ・ 単独型臨床研修病院（歯科）平成30年3月31日届出予定

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	4床	→	4床
急性期	122床		122床
回復期	24床		24床
慢性期	0床		0床
(合計)	150床		150床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	合意形成に向けた協議	自施設の今後の病床のあり方を決定（本プラン策定）	<p>集中的な検討を促進 2年間程度で</p>
2018年度	地域医療構想調整会議における合意形成に向けて検討	地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る	
2019～2020年度	具体的な整備計画を策定	現病床数及び病床構成の維持	<p>第7期 介護保険 事業計画</p> <p>第7次 医療 計画</p>
2021～2023年度		現病床数及び病床構成の維持	<p>第8期 介護保険 事業計画</p>

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病床稼働率：93%</li> <li>・ 紹介率：40%</li> <li>・ 逆紹介率：20%</li> <li>・ 救急車応需率：90%</li> </ul> <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費率：42%</li> <li>・ 医薬品比率：25%</li> <li>・ 診療・療養等材料比率：7%</li> <li>・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.9%</li> <li>・ 医業収支比率：103%</li> <li>・ 経常収支比率：104%</li> </ul> <p>その他：</p>
--

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

<p>毎年、地域の医療・介護施設の関係者を招き、講演会と情報交換会の2部構成での、地域連携交流会を開催している。医師だけでなく、看護師、医療ソーシャルワーカー、地域連携室スタッフ等の多職種が出席しており、「顔の見える関係」を構築している。今後も、医療と介護のシームレスな連携を目指し、地域包括ケアシステムの構築・推進に寄与していきたいと考えている。</p>
--